

学生による中医学教育ネットワーク構築の一例

～持続可能性へのトライアル～

An Example of a Student-led Educational Network for Learning TCM

— Trial for Sustainability —

立花涼夏^{*1}、一原愛心^{*2}、清山あいり^{*3}、田中陽愛^{*1}、鳥井陽平^{*3}、橋立周佳^{*3}、成田響太^{*4*5}

^{*1} 崇城大学薬学部薬学科、^{*2} 鹿児島大学医学部医学科、^{*3} 大分大学医学部、

^{*4} 真央クリニック、^{*5} 長湯鍼灸院

Suzuna Tachibana^{*1}, Kokoro Ichihara^{*2}, Airi Seiyama^{*3}, Hina Tanaka^{*1}, Yohei Torii^{*3},

Shuka Hashidate^{*3}, Kyota Narita^{*4*5}

^{*1} Department of Pharmaceutical Sciences, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Sojo University,

^{*2} Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kagoshima University,

^{*3} Faculty of Medicine, Oita University, ^{*4} Shin-ou Clinic Acupuncture & Moxibustion Annex,

^{*5} Nagayu Acupuncture & Moxibustion Clinic

【緒言】

近年の疾病構造の変化や超高齢社会の到来を受け、全人的医療や予防医学の必要性が叫ばれている。東洋医学は全人的医療を実践する医学であり、その重要性が認識され始めた。しかし、大学のカリキュラムで行われる東洋医学教育には限界がある。そのため全国の薬学部・医学部で東洋医学を学びたい学生が自主的にサークルを立ち上げている。

東洋医学には、様々な定義がある。最も狭義なものは漢方医学（日本漢方）を意味する。広義なものになると漢方医学に加えて、中医学、アーユルヴェーダ、ユナニ医学などが含まれる。

【方法】

九州の医学部・薬学部では、そのほとんどのサークルが中医学を学んでいる。崇城大学薬学部東洋医学研究会（以下、崇城大東医研）は「友と学ぶ九州東洋医学ネットワーク」の鍼灸師・医師の指導のもと、大分大学医学部と鹿児島大学医学部のサークルと連携を取り、新たな中医学教育ネットワークの構築を試みた。

【結果／活動報告】

共通の教育システムを使うことで、上級生が減少した大学でも他大学の上級生から指導を受けることができた。全国の薬学部・医学部の多くがサークルの存続に苦慮する中、この中医学教育ネットワークは、崇城大学、大分大学、鹿児島大学のサークルの持続可能性を高めることに貢献している。現在、崇城大東医研が主催する中医学基礎理論のオンライン勉強会には、全国から137人の学生が入会している。また希望する学生に発展的、臨床的な内容を学ぶ機会を設けることで、学生のレベルアップにつながっている。

【考察】

教育ネットワークを持続するために以下の3点が重要と考えている。

- ① 大学の学業を第一義とし、無理のない活動をおこなうこと
- ② 共に学ぶ学生の人数を確保するため、他大学・他学部と連携すること
- ③ 共通テキストを使いながらも、各大学の個性、独立性を尊重していること

今後はネットワーク持続のためのさらなる最適化が課題である。

キーワード：中医学教育ネットワーク、持続可能性、共通テキスト